

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホームにのみの家
所在地 (県・市町村名)	三重県津市新家町1488
記入者名 (管理者)	杉井 豊
記入日	平成 19年 5 月 8日

地域密着型サービス評価の自己評価票

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	地域との連携についての思念が希薄に感じられる。補足改善したい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	日常業務に追われ、基本理念を忘れ勝ちになることが多い。申し送り時、会議の場等で話し合い実践できているか確認に努める。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	ご家族とは、面会時、来所時など、つとめてコミュニケーションを図り理念、役割についても理解をふかめていただけるよう努力したい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	近所の子供さんが、たずねてくることもあるが、さらに積極的に来訪されるように開放してゆきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	施設空間に恵まれず、地域の皆さんを招じての行事が、職員からの要望にもかかわらず、実行できていない。当面可能なことから実行してゆきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域貢献への必要性については、職員会議等で、とりあげられているが、力不足もあり実行できていない。	○	認知症についてや、介護に関することなどについての相談に応じるなど、力に応じた範囲でお役に立てることから進めてゆきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義については、理解されており、先回の評価について反省し改善のための具体策をはなしあっている。	○	運営者を含めた、理解、改善努力は払われているが十分とは言えない。成果が確認できるよう努力してゆきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議の意義について理解を得、協力、委員人選方を依頼しており、近く開催の運び。	○	自治会、市の担当者などの方々にも協力方をお願いし開催を図ります。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認定手続き等を通じ処遇一般につき指導をいただいたり、交流を図っている。	○	地域福祉に貢献できるよう、関係者の方々と常に交流を深めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者家族からの問い合わせにも、説明、相談に応じ、地域のサポートセンターを紹介するなど努力している。	○	権利擁護、成年後見制度等専門分野についても、更に知識を深め具体的対応に努めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関心を深め、見過ごす事のないよう、注意深く観察を怠らないよう努めている。	○	研修会など、勉強の機会を生かし知識を身に付けるとともに、全職員が虐待に対し強い関心と、注意を怠らないよう心がける。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	<p>家族、とりわけ入所者本人には、不安が付きまとうことが多い、ホームでの日常生活を自分の目で見て、雰囲気に触れ、納得、安心できた時点で入所が決められるよう配慮してゆきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>利用者、家族が遠慮なく自由に思いや、意見が述べられるよう職員それぞれが伺う姿勢で対応をこころがげたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	○	<p>金銭管理については、小遣い報告、健康については、医師の往診所見など、きめ細かい連絡報告をこころがける。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>意見、不満、苦情は、独り占めしないで皆が知りおく必要があり、記録し会議などで周知をはかる。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	<p>現場の意見、要望等、管理者が代表して運営者と話しあっているが、できるだけ現地における実態を詳らかに実感し運営に反映されるよう願っている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	<p>利用者に対していつでも本来の支援が可能となるよう、事態の変化に対応できる柔軟な体制を整えておくようつとめる。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	<p>移動による不穩、不安を極力なくし、相互の信頼関係維持を図っていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループの施設と共同して、勉強会などの開催を計画している。	○ 資格取得希望者 ばかりでなく、積極的に資質向上に向け、テーマを選んで、継続的な実施が望まれる。職員は誰でも研修の機会を与えられ、進んで研鑽がつめるよう、ゆとりのある勤務体制、切磋琢磨の気風をはぐんでいきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要性を認識しており、職員の交友関係、職場での知己を通じて輪を広げ、相互訪問の実施、情報の交換等質の向上をはかっているが、まだ二三の施設訪問にとどまり不十分である。	○ 相互訪問の機会を広げ、交流、情報の交換を図りサービスの質の向上を目指したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	入居者の様態も重度化、多様化の傾向にあり、職員の勤務は厳しさを増しつつある。建築構造にもゆとりが少なく緊張を強いられことが多い。ゆとりある職員数の確保に努めている。	○ 入居者の様態も加齢に伴い重度化する傾向にありストレスも比重をましている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	それぞれが、自覚と責任において日々業務に専念しており、利用者満足を実感できるよう意欲を持って働ける環境をともに作り上げたいと努めている。毎週、管理者と運営者の話し合いを行っている。	○ 管理者、職員は、運営者の思い、人格に触れ、相互信頼を基に一丸となり、業務の推進が図られるよう願っている。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前の相談時、入居申し込み時において、利用者、家族の話に耳を傾け、悩みや不安が解消されるよう話し合いを十分行っている。	○ 単に其の時点での入居希望者の身体状況、家族の希望のみでなく、将来を見据えての支援のあり方、要望を本人、家族と話し合って行きたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	時間が許せばホームでの入居者の日常生活の現況をご本人、家族の目で確かめてもらい、納得、安心できた時点で入居をきめていただくようにしている。	○ ご家族の意見を聞くあまり本人の本当の気持ちを軽くみ勝ちになることがあり注意してゆきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できるだけ広い視野に立って、本人にとって一番よいサービスの選択をかんがえるようにしている。。	○	現時点のみでなく、将来に向けての配慮も怠らないようにしたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	カンファレンスで決定に入る前に、ある期間入所生活に慣れ親しんでもらい、落ち着いた時点で、本当に必要なサービスについて職員で話し合い検討するようにしている。。	○	入居時点では、雰囲気になれきれず、見誤ることがありうる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も一緒に喜怒哀楽を共有することで、お互いを知ることができ、強い信頼関係がきずかれる。本当にその人にとって必要なものも気づくことができると考え、努力している。	○	忙しい業務の中でつい表面のみ、一部分に目を奪われ勝ちなので、その人の人となり、生活暦など知ることにより全体像を見損なわない注意が必要です。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と接する機会、時間を持つことに努め、家族が利用者に対して抱く思いを共感できるよう努めている。	○	利用者の現状把握に努め、将来に向けての支援につき忌憚のない意見がかわしあえる信頼関係がきずかれるようつとめる。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は、本人、家族との関係の理解を深めるよう努め、誤りのない支援を心がけている。	○	関係には、知ることのできない歴史が隠されていることもある。信頼関係を築くことにより、より真実に添った理解が得られる。信頼関係の構築に努めていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	旧来の知人、お友達など馴染み深い人々との交流は、ともしれば孤独になりがちな心の支えになります、また、思いでの場所を訪れるなども心をなごませてくれます。外出行事を計画したり、ちょっとしたドライブに出るなど支援をおこなっています。	○	心穏やかに、ゆったり、安心して毎日が送れるよう、それぞれと、対話を重んじながら支援に努めたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	寄り添いあう人があれば、安定していただける例を良く見受けま、す、席、部屋、順番決定などきくばりしています。	○	みだりに、不必要な介入を避け、自然な関係を尊重したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院、施設、在宅など退去のあと本人、家族の意向を尊重しながらかわりを持ち、支援をのぞまれば応えるよう心がけている。	○	いつまでも当てにされる関係になれるよう努力します。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の理解に努め、全体像を見誤らないよう注意している、本当の希望、意向がきける関係を築くことに留意している。	○	一人ひとりの日常をよく観察し、職員同志の話し合いで本当の希望、意向を汲み取れるようにしたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族に書いて頂く生活暦、過去の生活像、本人が話す過去の話、その他理解に役立つものの把握に努めている。	○	本人からだけでなく、面会者、友人、家族などからもヒントをいただくことがある。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その日の状態の把握のみならず、変化を見逃さないよう努め、職員それぞれの情報を持ち寄り適切な判断ができるよう努力している。	○	観察を怠らず、把握。変化の記録を重んじている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあつたては、それぞれが一堂に会するに、時間の制約、場所の問題等困難な点もあるため、それぞれ意見をちょうし作成にあたっている。	○	家族の積極的意見希望をききだせるよう工夫が必要とおもわれる。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行い変化に対応するとともに、現状に即したものに作成しなおしている。	○	家族とは機会を求めて連絡を密にし現状、変化の様子など逐一報告できるよう心がけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌に介護記録、個々のカルテに個別記録を記しそれぞれが確認することで、情報の共有につとめている。	○	申し送り時にそれぞれの気づきや些細な変化など伝えあっている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望により、デーケアーの送迎、受診、入退院の付き添い、搬送など、援助に努めている。	○	多機能性を生かした支援ができるよう力を蓄えたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	一部協力支援(ボランティア、文化、教育等)を行っているが、十分とはいえない。	○	職員の充足を図り幅広い活動ができるよう努める。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	デーケアーの利用、リハビリ施設の利用等必要性、本人の希望などに添い参加を勧めている。	○	介護保険上の制約、送迎負担の問題に阻まれ広く利用できない。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人、家族の要望により対応している。	○	本人、家族の意向を幅広くくみ上げ適切な支援ができるよう、包括支援センターと協働してゆく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、事業所の協力医院と関係を蜜にし、支援に努めている。	○	協力医の定期的往診により、医療面での安心が得られるよう図ってゆく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医、こころの医療センターの専門医等による指導で適切、安心な支援に努力している。	○	認知症専門医と協力医との連携強化が図られるよう努めている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	グループのホーム常勤看護師と連携先に、日常の健康管理、医療活用の支援を図っている。	○	常勤の看護師の配置が望ましく雇用にむけ進めている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	最寄の病院の医療相談担当者と常に連携をとり入院、退院の支援、情報交換、相談にも応じるよう努めている。、	○	入院、退院の支援には、協力医の援助を受けている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、協力医と具体的な方針につき、納得、了解をえられるよう再確認する。	○	対応可能な体制づくりが、必要と思われます。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現時点では体制不備、支援可能な体制づくりについて検討を進めている。	○	対応可能な体制づくりが、必要と思われます。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族、関係者と十分協議し、可能な限り、事前に実地に赴き確認するなど、努力している。	○	本人、家族の意向を尊重し、本人が新しい住環境に安心して生活がエンジョイできるように支援に努める。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	親しさに慣れ誇りを傷つけることのないよう、気配りを心がけている。職員間の相談、伝達においても不必要な個人情報を排除しプライバシーの保護については細心の注意を払い、対応に誤りのないようつとめています。	○ 個人情報の取り扱いについては、秘密保持に関して職員に誓約させるなど意識の確認につとめている。日常業務中だけでなく、私生活の中でもつねに注意を怠らないようにしてゆく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	共同生活の中で、一部制約もあるが、それぞれが、自分の意思、能力に応じた生活が可能になるよう個々に希望を聞き、話し合い、納得した上で、決められるようつとめている。なんでも話せる雰囲気大切にしている。	○ 共同生活の中で、個人の希望をどのように叶えていけるか職員同志話し合いながら進めていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の意思を尊重し個々にあった援助を心がけ、他のために乱されることない支援に努めています。時間的制約、職員配置上の制約等出来ない部分については、十分話し合うよう心がけています。	○ 日常の生活リズムの中で、個人それぞれのリズムをどう調和させていくか、時間の制約をどうクリアするか検討が必要です。
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身体的事情により訪問理美容師に依頼することが多いが、行きつけの店を、指定される利用者もあり、本人の意思にまかせている。	○ 訪問美容師もいろいろの注文、好みに応じた対応を心がけてくれている。高齢者の「おしゃれ」が生活に色と張りを与えるものなので、美容教室などの開催も計画したい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の調達は、食材会社に任されており、献立も決まっているので利用者は、能力に応じて、配膳準備、後片付けの手伝いなどそれぞれできる範囲で協力し合って行ってもらっている。	○ 仕事は、準備、片付けなどに限られているが、おやつのおやつの工夫、準備、調達など積極的参加の範囲を広げていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎月の行事として出かける買い物ツアーでそれぞれ好みのものを求めたり、要求に応じて個々に出かけて希望のものを買ったりする援助をいしたり、家族の協力を得ながら、希望に添うよう努力している。	○ 買い物に外出したり、職員、家族などが調達している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	従来の方のみならず、工夫によって自立に近づけられるよう援助を心がけている。	○	一人ひとりの現状を観察し、パターンの把握、習慣など考慮して能力にあった、向上に向けての支援をおこなってゆく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を進んで楽しむ方、気分により入浴拒否の多い方、順番に強くこだわる方、それぞれに対応を心がけているが、時間の制約は排除できずにいる。	○	ゆったり、希望した時間に入浴が楽しめるよう業務全体の見直し、検討を図ってゆきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ほぼ日課として、散歩、レクリエーション、リハビリ等行っているが、それぞれのその日の体調、状況に合わせて、自主判断に任せて支援している。	○	身体状況、習慣に差があり、睡眠についても支援のあり方、対応の仕方に工夫が要る。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活の中に、それぞれが張り合いや喜びが見出せるよう、生活暦等参考に、能力、趣味等を生かして、役割分担して協力してもらっているが、意欲や環境に対する適応力などに差があり、無理強いにしないよう気をつけている。	○	場合によって、お互いの対抗心から、協調できずトラブルになることもある。皆が楽しめるよう配慮してゆきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持、使用については、管理能力に差があり、人により自立心、自信、生活の張り、など心のある方にも影響をもたらすものですが、思い違い、おき忘れ、しまい忘れなど混乱のもとにもなるので其の人に合った対応に努めています。	○	お金、装飾品なども、物盗られ妄想の種になったり、混乱の素になったりします。所持に対する、欲求の度合いや必要の度合いを考慮しながら対応してゆきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候により、散歩や、近くの公園、古刹の庭園へ季節の花を観に出掛けたり、海岸にも足を伸ばすなど、希望を聞きながら、実施している。	○	業務の事情、職員体制など希望を全て叶えることは困難でも、短い時間でも回多く実施できるよう努めていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	買い物、外食など、家族に伴われて外出されることは多い。一方、家族に恵まれず外出の機会のない利用者も少なくない。皆に出掛ける機会を持ってもらえるよう工夫している。	○	希望、目的など多様ですが、皆が参加できる行事としても、計画、実施に努めてゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎなどは、家族の協力、理解をいただいて、できる限り支援している。手紙など、筆まめに書かれている人もある。	○	家族への電話については、事情により、家族の協力、理解が必要な場合がある。ケースに応じ、本人の希望、気持ちに添えるよう援助してゆきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも、気軽に訪れてもらえるよう快い接待、対応に注意している。皆でするレクに参加してもらうなど楽しい雰囲気作りを心がけている。	○	個室で気楽に歓談してもらったり、ほかの利用者の方々とも楽しいひと時が過ごしていただけるような場が作れたらと望んでいます。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたる事項を再認識し、拘束のないケアの実施を確認しあっている。安全のためやむを得ない場合は、マニュアルによっておこなっている。	○	身体拘束はしないと定められており、しないですむケアを追及してゆく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵はない。玄関は職員の配置状況、利用者の様態等により、安全上必要最小限、時間を限りかけることがある、鍵をかけることの意味を職員は確認し合いかけずに済む支援に取り組んでいる。	○	ケアのあり方全体を常に見つめ直し、完全に拘束ゼロを目指したケアの実現に向け努力をかさねる。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全第一に、プライバシーに十分な配慮を払いながらケアにあたっている。個室でプライバシーは、護られ易くなっているが、職員はいつもこれを念頭に置き、行動パターンを理解した上で安全確保をきずかっている。	○	日々様態に変化の大きい人もあり前日の行動、心神の状態等を職員で申し送り、情報を共有することで安全の確保を達成してゆく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	女性の針仕事など、特別な配慮を必要としますが、針の本数の確認、使用後はさみの保管等、危険を伴うものの管理を利用者に任せ切りにせず、職員が一緒になって行っています。	○	できる限り希望をかなえ、張り合いがもてるようにそれぞれの利用者の希望に合わせた援助を心がけていきます。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	女性の針仕事など、特別な配慮を必要としますが、針の本数の確認、使用後はさみの保管等、危険を伴うものの管理を利用者に任せ切りにせず、職員が一緒になって行っています。	○	観察、注意が肝心。職員めいめいが、強い自覚と、相互協力とで防止に取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	救命講習は、先回一部の職員に限られたので次回以降全員参加を予定している。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	夜間は特に、職員の体制が非力であり、全職員のバックアップを期待しても、なお厳しい。地域の援助をお願いすることになるので、運営者の理解をえて対策に取り組んでゆきたい。
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	○	リスクについて家族と話し合い事故回避の方法について理解と協力を求め、誤りのないケアを目指してゆきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	○	勤務が多様なので、毎日定時の申し送り時は勿論、書面によって伝達漏れがないよう各職員が自覚をもって対処にそなえる。
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	○	高齢者の中には、服薬の種類も多く、注意が要ります。正確に、決められたように服薬できるよう間違いのない援助をおこなってゆきます。
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	○	便秘薬にも、人により適否、適量があり、医師による指導、日日の観察によって、本人に合った服薬指導を心がける。
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	○	歯科医師、歯科衛生士の協力により、口腔衛生の重要性を理解してもらい、磨き方の指導を行ってゆきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を継続的に観察、記録し一人ひとりに合った支援を心がけている。	○ 水分量のチェックは自室で水道水を密かに飲むケースがあり、注意して行ってゆく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	それぞれについて、マニュアルに則り、医師、看護師等の協力により適切に、対応をこころがけている。予防対策は、時期を失しないよう注意している。	○ 感染症対策マニュアルを整備し、職員が共通の認識の基、利用者の手洗いを始め、うがい、皮膚の清潔保持等々についても援助を心がける。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	職員が調理を行っており、毎月決められた検査を受けているが、調理用具の衛生管理にも意を尽くし、食材を厳しく吟味し、職の安全確保に遺憾なきを期している。	○ 調理従事者には、検便検査を実施、調理場への部外者の立ち入り禁止、調理具の衛生管理にも留意してゆく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	許す範囲で、空き地を利用、入居者のリハ活動の一環として園芸を 楽しんでもらっている。野菜等実のなるものに人気があり、土の整備をまって種類も増やしてゆきたい。	○ 環境条件に恵まれず、十分にできないが工夫により、皆が楽しめる空間を拡大したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、入居者の作品を掲示、除湿機、加湿器等をおき、良い環境整備をここがけている。	○ 建物の構造上制約があるが、工夫により、より良い環境づくりに努める。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に乏しく、一人ひとりの空間確保は難しいが、工夫により、屋外に目的に沿うような場所をみつきたい。ただ、全室個室であるため、気の合う同士居室を歩き来しての交流はみられる。	○ 空き空間に恵まれず、知恵を出し合って対処したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人、家族と相談、希望を聞きながら、今までのその人らしい生活が延長、継続できるよう使い慣れたもの、気に入った馴染みの物等身近において、和やかで、落ち着いた生活の継続が可能になるよう気を配っている。	○	自分の気に入った、落ち着ける、安心できる部屋作りを進めてみたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の希望、意見を尊重、衛生的で、住みよい環境づくりを心がけています。換気、空気の汚れには、留意。調理器具は、オール電化、暖房は床暖房を設備している。	○	温度調節は、人により、冷暖房を嫌う人もあり、好まれる温度もさまざまなので、本人納得の上行っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には、洗面所、トイレ、整理だな等を置き、自立度に応じた安全な生活を助けている。厳寒期には、床暖房も一助となる。	○	換気については、窓の全開放ができず、工夫を必要とします。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員は、一人ひとりの能力に応じ、混乱が起きないように気配りすると同時にその人に合った力の範囲で自立を目指してゆく。	○	一人ひとりの力を見極め、意欲が引き出せるよう支援している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花作り、菜園、広場は夏の夕涼み等、活用を心がけている。	○	野菜作り、花作り等が希望どうりできるよう、話し合って工夫、改善に結び付けたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

協力医と24時間在宅医療が行える体制を整えており、緊急時入院が必要な場合も対応が可能で、安心して療養が継続できます。歯科医とも協力契約により何時でもすぐ往診治療が受けられます。